

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」・第13回実証試験の開催概要

- インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、地方自治体（施設管理者）が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する**実証試験**を実施しました。
- 第13回実証試験では、岡山県企業局から提供されたニーズ「導水路トンネルの内部点検」に対して、民間企業（古河産業(株)、日本工営(株)）が提供技術の説明を行った後に、現地において試験を行いました。
- 実証試験を受け、岡山県からは、目視点検からロボット（カメラ）による点検への移行を前向きに検討できるとのコメントを頂きました。

■日 時：令和6年4月24日（水）13:00～16:00 ■場 所：笠岡供用導水路（岡山県倉敷市玉島長尾地先～玉島道口地先）

■参加者：39名【施設管理者 岡山県企業局：10名 / 民間企業（古河産業(株)）：8名、（日本工営(株)）：6名 / インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員：9名 / 中国地方整備局：2名/ インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」行政会員：4名】

○開会挨拶



インフラメンテナンス国民会議
フォーラムリーダー 藤井 堅
(広島大学名誉教授)

○ニーズ提供者感想



岡山県 企業局
工業用水事務所
主任 竹本 香奈

○閉会挨拶



中国地方整備局 企画部
広域計画課長 佐々田 敬久

○技術の説明、現地での試験

■無人小型船：古河産業(株)

シーズ技術の説明



無人小型船



導水路への投下



■フLOAT式通水点検ロボット：日本工営(株)

シーズ技術の説明



フLOAT式通水点検ロボット



導水路への投下



